

東日本大震災による死別体験者が苦しみの中で求めるもの

関西学院大学大学院人間福祉研究科博士課程後期課程 氏名 安井 優子 (008980)

〔キーワード〕被災者、死別、スピリチュアリティ

1. 研究目的

2011(平成23)年3月11日に発生した東日本大震災では、15,000人を超える多くの死者が出た。震災後、被災地では被災者に対する心のケアが重視され、様々な自殺予防対策が講じられている。厚生労働省は、震災に関連する自殺の原因として「健康問題が最も多い」(厚生労働省自殺対策推進室 2017)ことを挙げ、今後も長期的な取り組みを必要としている。

世界保健機構(WHO)では「身体的・精神的・社会的側面がすべて満たされた状態」(公益社団法人日本 WHO 協会 2017)との従来の健康の定義に、新たにスピリチュアルな領域の追加を検討している。藤井によると、スピリチュアリティは「人間の尊厳の確保や QOL を考える為に必要な本質的なもの」(藤井 2013:225)である。震災・津波というどうすることもできない出来事に直面し、自分のいのちの危機や愛する人との死別を体験し、悲嘆を抱え生きる人がいる一方、自らのいのちを絶つ人がいる。その背景には、スピリチュアルペイン、つまり自己と自己・他者・人間を超える大いなるものとの関係性の中で「生きる意味や関係性が見出せない苦しみ」(藤井 2010:524)が関与しているのではないかと筆者は考える。

本研究は、「東日本大震災・津波で愛する人を喪った人が、その苦しみを抱えながら生きてきた5年間のプロセスの中で、求めてきたものは何か」を明らかにすることを目的とする。また、それにより、同じ社会・共同体の一員として生きる筆者たちが、その苦しみにいかに寄り添っていくことができるか、今後の課題を提案し、スピリチュアリティの視点を視野に入れたこころのケアのあり方について貢献できればと考える。

2. 研究の視点および方法

本研究では、まず人の苦しみや悲嘆についての理論や、東北地方の宗教文化・死生観について文献研究を行った上で、震災直後から始まった金田老師ら臨床宗教師による活動「カフェ・デ・モンク(傾聴移動喫茶)」に参加したことがある、家族と死別した被災者2名を対象に半構造化面接によるインタビュー(2016年6月～8月)を実施した。そして、その逐語録と、カフェ・デ・モンク(2016年5月～7月計4回)や秋田県西馬音内盆踊りでのフィールドノーツ、資料をデータとし、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(以下M-GTA)による分析・考察を行った。

3. 倫理的配慮

本調査は、関西学院大学「人を対象とする行動学系研究」倫理審査部会の承認の元、調査協力者に、予め、調査目的や、協力は任意であること、個人情報保護等について、口頭及び文書にて説明し同意を得た上で実施した。

4. 研究結果

M-GTA を用い繰り返し分析を行った結果、東日本大震災・津波により愛する人を喪った人が求めてきたものは「苦しみに対し自分なりに意味を見出すこと」(コアカテゴリー)であることが導き出された。そして、被災者が「苦しみに対し自分なりに意味を見出すこと」においては【人との温かい交流】【宗教性の提示への希求】【自己と向き合うこと】(カテゴリー)が鍵となることが明らかとなった。また、その「苦しみ」とは、人間が普遍的にもつ実存的な苦しみ、すなわち、スピリチュアルペインであるということが明らかとなった。

5. 考察

東北地方では、豊かな自然と、宗教と、人々の暮らしとが、地域一体の文化を織りなしており、その地域に土着化した独自の文化は、苦しみの意味づけに影響を与える大きな背景要因の1つであるといえること、加えて、東日本大震災・津波による愛する人との死別体験者にとっての「限界状況」という現象は、「自分なりに答えを見出せない苦しみに支配され、その苦悩がピークに達する状態」を指すといえるのではないかということが示唆された。

また、金田老師ら臨床宗教師の活動は、宗教者としての関わりであると同時に、スピリチュアルペインに配慮した関わりであることを論じ、限界状況における人へのソーシャルワークにおいても「スピリチュアリティに配慮したソーシャルワーク」が必要であることを提言した。

(文献)

藤井美和(2010)「スピリチュアルケアの本質－死生学の視点から」『老年社会学』31(4),522-528.

藤井美和(2013)「人の苦しみとスピリチュアルペイン－ソーシャルワークの可能性」『ソーシャルワーク研究』38(4),4-18.

公益社団法人日本 WHO 協会(2017)「健康の定義について」(<http://www.japan-who.or.jp/commodity/kenko.html>,2017.4.21)

厚生労働省自殺対策推進室(2017)「東日本大震災に関連する自殺者数(平成29年2月分)」(<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12200000-Shakaiengokyokushougaiho-kenfukushibu/201702-shinsai.pdf>,2017.4.21)